

田野地域の文化遺産 (田野地域自治区管内)

【地域の歴史と特色】

田野地域は、宮崎市の南西部に位置し、南西に鱈塚山、東部に荒平山、西部から北部にかけて丘陵状の山々が連なり、それらに囲まれる形で東西に長い田野盆地在が広がっています。

古代律令制下は、諸県郡・宮崎郡のいずれに属していたかは不明ですが、南北朝期には八条女院領国富庄に含まれていました。

近世は、田野村と見え、飢肥藩領清武郷の内にありました。

【文化遺産マップ】



かりやばるじょうあと ① 仮屋原城跡

松山川と別府田野川に挟まれた断崖の上に築かれた、東西約350m、南北約150mを城域とする山城です。

仮屋原城の築城年代は不明ですが、暦応2年（1339、北朝年号）5月9日の足利直義感状（小串文書）には「日向国々富庄内田野城合戦」と記され、この「田野城」が仮屋原城と考えられることから、少なくとも南北朝期には城郭が存在したと考えられます。

文安5年（1448）には、伊東祐堯の領有するところとなり、伊東氏48城の一つにも数えられました。『日向記』には、永禄年間（1558-70）の城主に長倉河内守とその子宮内太夫の名が記されています。



かりやばるけいこく 📷 仮屋原溪谷

仮屋原城の麓を流れる松山川と別府田野川の流域一帯は、化石の採集地として知られています。

平部嶺南の『日向地誌』には、田野村の「化石溪」として紹介され、借屋原を流れる松山川に化石が多く、ウナギ・カニ・サザエ・シジミなどが採取されるとの記述が載せられています。海産のものは、これまで50種類の発見が報告されており、中には学名で「タノ」の名が付く巻貝「タノツブリ」と二枚貝「タノスダレ」もあります。また、近年では「メガロドン」という巨大鮫の化石も発見されています。



ながくらかわちのかみのはか ② 長倉河内守の墓

仮屋原城から別府田野川を隔てた小さな丘陵上にあります。塔は高さ165cmで、各部材の正面に「南」「無」「阿」「弥」「陀」「仏」と、塔身部分正面に「経阿弥陀仏」「天正四年（1576）丙午」の文字が刻まれています。

詳しい記録は残っていませんが、永禄年間（1558-70）の田野城主として『日向記』に記される長倉河内守の墓と伝えられています。

また、ここから少し離れた上屋敷の公民館近くに「干時永禄十年（1567）丁卯三月吉日」の紀年銘が記された宝塔があります。二重の礎石の上に塔身、その上に火輪型の笠石、請花と五重の相輪をもち、田野町域では、最も古い石塔になります。



かりやばるろくじそうとう
③ 仮屋原六地藏塔

仮屋原墓地入口に、寛延3年（1750）の紀年銘が刻まれた六地藏塔があります。

角柱の上部に天蓋石を乗せたもので、台石はありません。角柱の一面には、それぞれ地獄・飢餓・畜生・修羅・人間・天人と名無地藏大士の文字が刻まれています。

田野地域には、このほか築地原、中渡瀬、上屋敷、南原の墓地にも六地藏塔が残っています。



ひだかじょうあと
④ 日高城跡

築城年代や城主など、城に関する記録は残っていませんが、仮屋原城の支城ではないかと考えられています。

現在は、曲輪や土橋のほか、防御施設として土塁、堀切、切岸などが残り、土地所有者の厚意により、登城の通路などが整備されています。



ぶつとうそんぐんそうぶつ
⑤ 仏堂園群像仏（市史跡）

四国八十八カ所の弘法大師の霊場巡礼を模して作られた石仏で、本来は各所に分けて置かれていたものを一カ所にまとめたのが、この群像仏です。桜木嘉平氏が発願施主となって作られたものですが、制作年は不明です。

他に数は少ないですが、尾脇の稲荷山と黒草にも同様のものがあります。また単独仏として各地に分置したものも残っています。



うめたにばし
⑥ 梅谷橋（市有形文化財）

梅谷地区と尾平地区を結ぶ道路を開通させる際に、清武川支流の山住川に架けられた太鼓橋で、昭和3年（1928）に奥園末吉氏が請負人となって架橋したものです。橋脚はアーチ型で、破損もなく良好な状態を保っています。当時は主要な道路として使用され、馬車の往来もあったそうです。



うちのはえたいこばし
⑦ 内の八重太鼓橋

旧田野町と旧高岡町の境界となる黒北川に架かる、長さ約12m、幅4mの石橋です。昭和11年（1936）に架橋されたもので、高欄はガードレールに変わり、路面は舗装されて面影を残していませんが、アーチ型をした橋脚部分は傷みもなく良好に残っています。工事請負者等の記録は残っていません。

田野町域には、梅谷橋や内の八重太鼓橋をはじめ、計7件の石橋（水路橋を含む）が現存しています。すべてアーチ型で、このうち黒草水路橋は、昭和初期に架橋されたものです。築地原水路橋1号は大正2年（1913）、同2号は昭和初期、元野太鼓橋は大正11年（1922）、唐仁田太鼓橋は明治36年（1903）の架橋で、いずれもほぼ良好な状態を保っています。



唐仁田太鼓橋 ➡

たのちょうあまだいこ
〈民俗芸能〉 田野町雨太鼓（市無形民俗文化財）

島津氏と伊東氏との攻防が繰り返されていた頃、田野から伊東方として出陣した際に使用した陣太鼓が雨太鼓の起源と伝えられています。

また、明治時代の干ばつが酷かった頃に、雨乞いを目的として各集落で作成し、利用されるようになったとも考えられています。太鼓は、タブの木などの大木をくり貫いて作成されています。



さきぜちくしろぜめおどり
〈民俗芸能〉 鷺瀬地区城攻め踊り（市無形民俗文化財）

戦国期に高岡の穆佐城を攻めた清武勢に田野からも軍勢が加わりましたが、その際に敵の油断を誘うため農民姿に変装し、武器を見せずに面白おかしく踊りながら攻め入ったことに由来するものが、この城攻め踊りと伝えられています。

孟宗竹で作った長さ2mほどの棒を50本ほど束ね、色とりどりの紙の花びらを付けた束を背負い、鐘や太鼓を打ち鳴らしながら舞い踊る姿は、とても勇壮です。



ちくちばるぼうおどり
〈民俗芸能〉 築地原棒踊り

伊東氏が元龜3年（1572）の木崎原の戦いで島津氏に破れ、天正5年（1577）から約10年間、田野を含めた宮崎郡も島津領となりましたが、この頃に現在の三股町あたりから伝わったのが、この棒踊りであったと言われていいます。

浴衣着に、赤・青・黄色の長たすきを掛けた衣装で、鎌を持つ2人、三尺棒を持つ2人と六尺棒を持つ2人がそれぞれ分かれて戦いながら舞い踊る、迫力のある芸能です。



もとのぼるいせき
⑧ 本野原遺跡（国史跡）

鰐塚山系の山麓にある、縄文時代後期を中心とする集落遺跡です。集落の中心となる部分は、直径約100mにわたって浅い窪地状に削られており、縄文時代の広場だったと考えられます。竪穴住居が113軒のほか、堀立柱建物、道跡、墓穴、貯蔵穴など、縄文時代の生活に関わる多くの遺構が、大量の遺物と共に発見されました。特に竪穴住居の検出数は西日本で最多となります。

